

令和4年度 第1回 志摩市総合教育会議 議事録 (概要)

- 1 日 時 令和4年7月19日(火) 13:30~14:45
- 2 場 所 志摩市役所5階 庁議室
- 3 出席者 橋爪政吉市長、舟戸宏一教育長、濱口茂之教育長職務代理者、森かお子教育委員、山下行重教育委員、坂中小百合教育委員
(事務局) 箕浦政策推進部長、井上総合政策課長、米奥係長
伊藤教育部長、山本教育総務課長、金光学校教育課長、村井学校教育課副参事、澤田総合教育センター長
- 4 議 題 ・市内県立高等学校の活性化について

事務局	<p>皆さんこんにちは。本日は、総合教育会議開催にあたりまして、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。事務局の総合政策課の井上と申します。よろしくお願ひいたします。会議を始める前に、本日の資料の確認をお願いしたいと思います。</p> <p>【資料確認】</p> <p>それでは本日の総合教育会議につきましては、志摩市総合教育会議設置要綱第6条の規定によりまして、公開で開催する状況になっております。なお、現時点では傍聴者はありません。</p> <p>本日の進行は、お手元の事項書に沿って進めさせていただきます。それではここからの会議の進行につきましては、同要綱第4条第3項により、議長である市長をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
市長	<p>それでは、ただいまから令和4年度第1回志摩市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>日頃より、教育委員会の皆様におかれましては、本当にお忙しい中、それぞれのお立場から貴重なご意見をいただきまして、心から感謝を申し上げます。そして本日の会議にご出席をいただきましたことを心から感謝を申し上げます。</p> <p>本日の議題であります。皆さんご承知のとおり、近年、県立高校については、そのあり方、考え方を議論しなければならないという時期に</p>

	<p>来ているという状況にあります。</p> <p>志摩市においても人口減少、そして若者の流出が進む中で、地域の中に県立高校が二つあるというのは非常に、優位性の高い地域であると思います。地域の子どもたちが、学びを深めるという部分においては、2校あるということは大変重要であるというふうには感じております。</p> <p>しかしながら、県の議論でいくと、非常に厳しい方向で、しっかりと考えていかなければならないという方針も出ています。私も県の方の方々とお話をすると、厳しい方向になるだろうということを、ひしひしと感じてしまうような状況になっております。</p> <p>それを何とか食い止めるためには、どこかで議論を始めないとできませんし、私たちがしっかりと議論していかないと、県に様々な意見も出していけないと思います。こういった市内の県立高校をどう残していくかという議論について始めることが大事だと思ひまして、本日の議題とさせていただきます。皆さんのそれぞれのお立場の中で、引き続き、貴重なご意見をいただければと思いますので、本日はよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、お手元の事項書に沿って進めさせていただきます。</p> <p>議題1の、市内の県立高校高等学校の活性化について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【資料1～3に基づき説明】</p>
市長	<p>それでは、このことについて、ご意見をお聞かせいただきたいと思ひます。大変、厳しい資料と申しますか、現実に置かれている状況はこういうことでもありますので、ぜひ忌憚ないご意見をいただければと思ひます。</p>
教育委員	<p>市内県立高校の存続に向けては、生徒・保護者に選ばれることが必要であるということですが、そのことについて、専門性のある学科というのも魅力もあって良いと思ひます。ただ、高校へ進学するときに、進路が決まっている生徒だけではなくて、他にまだ決まっていないような生徒もみえると思ひます。その中では、やはり市内に普通科があつて欲しいというような声をよく聞きます。選ばれるためには、ぜひ普通科を存続して欲しいと思ひます。</p>
市長	<p>論点の1点目とさせていただきますが、1点目の市内県立高校の存続</p>

<p>教育長</p>	<p>に向けて、先ほど委員からご意見をいただいた部分について、他にご意見あれば、お聞かせください。</p> <p>選ばれるというところについて、確かに選ばれなければ、子どもたちが集まらないというところですが、一つは、先ほど、事務局の説明もありましたように、ここ数年の間に、魅力化あるいは特色化というところで、高校が努力してきたのは確かです。そのために、例えば、志摩高校の美術部やボランティア部であるとか、水産高校の地域との連携とか、様々な取組が行われていて、それには一定の成果があったと思います。ただ、それが選ばれるというところに強くつながらなかったことについて、なぜなのかということを検証してみる必要もあるかと思います。</p> <p>実際、私が現役の教員だったころに、子どもたちに、どのような高校の選び方をするのかを聞いた中では、やはり、地元の学校を選ぶ場合、一番の利点は「近い」というところでした。それが選ばれる理由でありました。近いと何がいいかというと、通う時間が少ない。つまり、部活にせよ、趣味にせよ、他の伊勢の高校に行くよりも、数時間は活動する時間が取れるという、そういった魅力を語る子どもたちが確かにいました。それが地元の高校の一番の利点であり、そこを生かしていくということにはなると思いますので、近くにあって、自分たちが行きたい学校としてマッチすれば、もう最高の結果につながるというふうには思いますが、非常に厳しい状況は確かです。</p>
<p>市長</p>	<p>私からも発言させさせていただきます。庁舎に入られるときに1階で見られたかもしれませんが、今日から志摩衛生社さんが、志摩高美術部の方にペイントしてもらった浄化槽の蓋を展示しています。全国的にも、下水道施設の蓋をデザインしたという事例は、割とあるんですけども、浄化槽の蓋をあのような形でペイントするのは珍しいんです。あれは、蓋にそのままに書いてあるんじゃないくて、実は1枚、コーティングして書いています。今朝、展示しているときに社長さんと話をしたんですが、志摩高の子どもたちの活躍を志摩市中に知っていただけるように頑張りたいということで、電話帳の広告もやめて、その代わりに、こっちにお金を使っていますって、言っていたんです。</p> <p>もちろん、これは志摩高が魅力ある、選ばれる学校にならないと、幾らPRしても駄目だと思うんですけど、美術部という一つの活動に対して、魅力を持っておられる志摩市の企業がお見えになって、特に磯部地区の事業者さんなので、少しでも、志摩高校については、自分達で汗を</p>

	<p>かけることをかいていこうという、非常に前向きな取り組みをいただいた事例であると思います。先ほど、教育長がおっしゃられた検証という部分においても、一定の地域の方々に魅力を感じさせる成果になっているのかなとは思っています。</p> <p>もちろん選ばれる高校づくりというのは、県立高校なので、市が所管しているわけではないんですけども、小中学校の子どもたちに選ばれることが必要なので、その生徒さんとか、保護者さんの目線で考えていくと、何が本当にターゲットとして正なのかというのは、なかなかはっきり言えないので、本当に歯痒く、難しい部分なのかなと思います。しかし、このことは、やはり我々が県に対して訴えかけるときに、非常に大事なツールになると思いますので、引き続き、保護者の皆さんや生徒さんの声を聞いていくということが必要なのかなと思っていますので、また皆さんからもご助言いただきたく、よろしく願いいたします。</p>
教育委員	<p>先ほど美術部の活動と地元の企業がコラボしてというような、具体的な事例を教えてくださいました。私の近所にも、美術部で活動して、自分の思い描いていた芸術大学にも入れたというようなことで非常に喜んでいる生徒さんがいました。親御さんの方からは、子どもがそのような形で自分のキャリアを伸ばしていける状況を作ってくださいまして非常にありがたかったというような話をお伺いしました。やはり高校に入ることが目的じゃなくて、入ってから何ができるかというのを具体的な形で提示して、こういうような活動ができて、こういうようなキャリアアップができたというような部分を、どんどん発信していく必要もあると、お話をお伺いして思いました。</p> <p>それと、高校を選ぶ時の理由として、通学が近いというようなことが第一番に挙げられているというような調査があります。自分の学びのことと、通学が近いというような部分のところを合わせて、それぞれ具体的な形で情報を提供していくことが大事だと思っています。</p>
市長	<p>確かに、この間、県立大学の設置要望に県庁へお邪魔させていただいたところなのですが、県内の南部地域の高校生の親御さんたちのニーズは82%以上が南部地域に県立大学作って欲しいということなんです。それは委員がおっしゃられたように、圧倒的に近さの問題です。通える範囲にほしいということなんです。ただ、学生さんからすると、40%前半ぐらいだったんです。ニーズがないことはなくて、非常に近いっていう部分に関しては、学生さんも非常に魅力を感じられるようです。そのほ</p>

<p>教育委員</p>	<p>かに何かこの点でいかがでしょうか。</p> <p>水産高校も志摩高校も本当に地域になじみのある高校です。それで高校の魅力化とか、特色化によって、入学者数の確保につながっていくのではないかと思います。先ほどのお話にもあったように、地域全体に高校の努力とか魅力化が伝わっていくような雰囲気、当事者だけではなしに、地域全体でそういう雰囲気が伝わるといいなというふうに思います。それから、少子化になっていますけれども、子どもたちは志摩市の宝です。今までのように、子どもたちが自ら教育環境を選択できるように、普通科の存続を強く要望したいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>おっしゃる通り、本当に子どもは宝です。教育長にも日々言っているんですけど、本当に今、我々としても、子どもたちに生きる力っていうことをどう学んでいただくかということを考えています。特に、昨今、非常に痛ましい事件があったりすると、やっぱりどこかで社会に押し負けていくとか、そうならないように、生きる力というのは改めて大事な気がします。そう思うと、子どもは宝なので地域で育むということは非常に大事な視点ですね。今自分に言い聞かせてしまっていますけど。</p>
<p>教育長</p>	<p>その流れの中で、地元には高校があると、地元の小学校との関係は薄いかもしれませんが、中学校との連携が可能になるんですね。その生きる力という部分で、9年間の義務教育でやってきたことを、高校にバトンパスができる。市外の高校とも連携がないわけじゃないです。情報交換等はしますが、その高校自体も広範囲になりますから、やはり地元の高校ほど強い繋がりを保つことは難しいというのがあります。そこは地元の高校の強みであり、中学校からのいろんな情報を集約し、子どもに深い関わりができるという魅力はあると思いますので、その存在価値っていうのは大きいとは思いますが、ただ、それで子どもたちが選ぶかどうかということはまた違いますけれども。</p>
<p>市長</p>	<p>そこは市長部局として、ちょっと頑張らなきゃ駄目なところで、やっぱり地域に魅力を感じていただいて、この場所に残りたいって思ってもらえるように、いつも私が言う、「自慢できる新しい志摩市」っていうものにならないと、子どもたちも「ここに残りたい」という気持ちがあれば、地元の高校を選ぼうかっていう、次のステップにはなかなか行きにくいと思います。それは、卵が先か鶏が先かわからないんですけど、</p>

	<p>教育行政と市行政というのは二人三脚で行かないと駄目なところがあると思います。</p> <p>他に何かご発言ありますか。よろしければ、それでは、1点目の部分においては今ご意見いただいたことを少し集約していきたいと思しますのでよろしくお願いします。</p> <p>それでは2点目の生徒・保護者が高校に求めていることが何か、進学のための教養かそれとも就職ためのスキルなのか、生徒保護者の希望を把握し、希望に沿った学校をつくることが必要なのではないかとこの部分に関して、ご発言ありますからよろしくお願いします。</p>
教育委員	<p>進学のための教養も、就職のためのスキルというのも、どちらも求められていると思います。高校を選ぶときには、子どもの気持ちはもちろん一番ですが、保護者同士の情報交換や、進学塾での話で志望校が決まっていくこともあります。また高校の特色や部活など、正確な情報が保護者に伝わる機会もあると聞いています。大学進学率が年々上がっている中で、地元の高校で学んで、進学の道を希望する生徒もいるので、その道を確保する必要があると思います。高校に求めることは人によって様々ですが、進学も就職もどちらも求められているため、普通科の存続も必要だと私は思います。</p>
市長	<p>まさに、どちらをとというふうに決めるのは、生徒の保護者もそうだと思うんですけど、まだまだ大学の進学という部分に対して、社会人になってからどういうふうなことをしようということを思い描いて、中学生生活とか高校生活を送っている子どもは、まだほとんどいないと思います。やはり、知るチャンスを我々が作ることも大事ですし、様々な学びに対しても、ニュートラルな考え方というのも非常に大事だと思っています。一点、私が気になっているのが、行政の中で、技術職が圧倒的に少ないんです。技術職というのは、土木であるとか、建築であるとか、そういう部分が非常に少なく、民間企業の皆さんに聞いても、今の事業所に行っても、特にものづくり系は人材不足だそうです。本当に人材不足の中で、それぞれの業種によって多種多様すぎて、どの学びをこうすればいいとか、ターゲットはなかなか絞りにくいと思うんです。我々も、必要とされている業種がこういうのがありますよとか、こういう職種はなかなか人がいませんよっていうのを、何かしら情報発信できるとよいように思います。例えば、一時期、介護の現場で働く方が足りなくて、たくさんそちらへ進んだ方が多いと思うんですけど、今も介</p>

<p>教育長</p>	<p>護職の皆さんは足りていないんですが、それ以上に別の業種が足りていない状況があったりします。時代時代で、業界の動きというのはスピード感があるので、情報発信っていうのは大事だと思います。</p> <p>先ほどおっしゃった進学のための力なのか、就職ってあまり限定すると言葉が狭くなるんで、これはもう、生きていくためのスキルっていうことだと思うんですが、高校の指導要領も変わって、探求学習とかが増えているというのは、結局、大学に進学するといったことは一つの通過点であって、それを目指しているわけではなくて、その後、社会に出たときにどんな力を発揮できるかとか、どんな生き方をしていくかという、まさしくその探求の部分はそこに繋がっていくところだと思うんです。そのように切り換わってきているんだけど、きっと現場は追いついてないというふうに思います。ですから、現場が追いついていなければ、今委員がいましたように、保護者の中には、「この高校に行けばこの大学に入れる」みたいな価値観で進学を決めているところがあって、それはこれまでもそうでしたし、ただそういった流れでいけば、この進学ということに関わって、志摩市の高校が担う部分というのを、例えば伊勢の高校と競争するというわけにもいきませんし、もっと特色を出していかないといけないわけで、その特色が、社会でどうやって生きていくかっていう力に集約されると思うんです。ただ、そこが切り替わっていないというか、意識もついてきていない。例えば、昔から水産高校の生徒は、100%就職率で、資格を10個も取る生徒がいて、就職している。その魅力は魅力として、昔から言い語り続けられていることなんだけれども、それにしても、そこに生徒がもっと集まってくればいいのという気持ちがあります。それは一つの価値観なのですが、現実がついていないという何か寂しい気持ちはします。</p>
<p>教育委員</p>	<p>第一次産業に携わる方の人気が無い中、大学の准教授の人が、魚介類を活かしながら、それで持続可能なものを作っていくというようなことで、漁師になったという話がありました。何でそういうような職種に元気がないのかということについて、それは所得に関するものなのか、それとも別の問題なのか、そういうものを分析したうえで、その職種の人気が出るような方策を考えていただきたい。行政とか、一般の会社でもそうですけど、問題点を解決して、それで、どうぞ来てくださいよということだと思います。こういう資格を取って、こういう仕事についたら、十分な所得もありますよというようなことを示してあげたら、今より</p>

<p>市長</p>	<p>は、解決していくと思います。ですから、そういうものをやる高校というのが、人気が出るというようなことにも繋がると思いますので、その辺のところを考えていただいたらどうかなと思います。</p> <p>できる限り、今日のご意見を踏まえた上で、県教委と話をしたいと思っています。今年の年度始めにも、教育長と一緒に、県の教育委員会にご挨拶にお邪魔させていただいています。なぜそういうことをしたかという、やはり、県立高校が危ぶまれる雰囲気はひしひしと感じていたからです。この前は初めて一緒に行かせていただいて、お話も聞いて、少しこちらの訪問理由もちょっと匂わせながら面談させていただきました。やはり今、皆さんがおっしゃられているとおり、どこに子どもたちがリスクを感じているのか。それを明確に取り除いていくことで、我々としては、地域に残って欲しい。地域の県立高校を選んでいただいて、いったん大学へ出ても、やはり地域に帰ってくるっていうことが、本来であれば、そうして欲しいと思っています、そういった部分で、皆さんに相談させてもらって進められればと思いますので、よろしく願いします。</p> <p>他よろしければ、それでは次に「また、高校に進学する前の小・中学校の段階で、将来の自分のキャリアについて、思い描いていただくきっかけを作る手法を具体的に考えることが、必要ではないか」という部分で、何かご発言ありますでしょうか。先ほどの議論とも関連しますが。</p>
<p>教育委員</p>	<p>地域の教育資源によるキャリア教育、これは進路保障とも関わってくると思いますが、現在、コミュニティスクール制度の外部講師などと同様に、「ようこそ先輩」というような形で学校の方へ来ていただいて、具体的に働く人の姿を見ていただいたりしています。ただ、これからは、小、中、高と連携して体系的なキャリア教育が進んでいくことが大事になってくるだろうじゃないかと思います。志摩高校の方でも、いろんな形でキャリア教育していただいています。小学校、中学校、高校、それぞれ体系的に繋がり、高校でどのような資格とか、何をやるんだとかいうようなことを、しっかりと、外部講師も含めながら、また地元の企業さんも、具体的な姿として、見せていただきながら、取組が進められると、より自分の進路っていうようなものが明らかになってくると思います。それがこの高校へ行きたいという生徒の増加にも繋がってくるというような思いを持っています。</p> <p>そこでもお願いですけれども、行政として全庁的に、人材バンク的なもの</p>

のも作っていただいて、こういうようなときにはこういうような人材がいますよというようなご紹介や支援、協力していくというような体制を組んでいただきたい。あるいは商工会と連携して、職場体験の事業所とか、インターンシップ先の企業とか事業所を確保して、こういうようなところで受け入れしていただいて、こういうような姿が見てもらえますよ、というような仕組みの整備をお願いしたい。学校単位でしようと思っても、なかなか忙しかったりとか、いろんな部分がありますので、行政も一体となって協力していくというような、そういう仕組みを作っていただけたら非常にありがたいです。同時に、今、大学の話もありましたけれども、大学の先生も入れて、一体となったような形でのキャリア教育の推進というのも考えていただけたらありがたいなと思っています。ぜひお願いしたいと思います。

市長

まさに今、私が感じていることなのですが、中学校2年生のときに、職場体験を1度だけやるわけですけど、本当は、これを複数回していただきたいと思っています。今、委員がおっしゃったとおりで、これは、商売でも何でもそうなんですけれど、体験することが最大のプロモーションだと思っていて、本で見たとかネットで調べた程度だと、やっぱり仕事の上っ面しか見えないんです。インターンシップ制度を取り入れていくというのは、ちょっとハードルが高いかもしれませんが、職場体験として、例えば、中学生のうちに複数回、志摩市にある様々な事業所の様々なお仕事を体験するチャンスを持っていただくということは大変重要であると思いますし、それがひいては、志摩へ戻ってくるきっかけになればなと思います。実は今年度、若手職員80名と、ミーティングをさせていただくんです。副市長と2人でやるんですが、80名と話をするとパワーを吸い取られるんで、結構大変です。去年、消防の若手職員の話聞いたときに、「なぜ消防を選んだんですか」って聞いたら、「自分が中学生のときに、何かのきっかけで、消防署の人が働いている姿を見たんです。それかっこよくて、絶対に消防士になろうと決めたんです。」ということでした。もう中学生のときに決めていたんですよ。多分、消防士の皆さんがキラキラして見えたんだと思うんです。そういった形で、「中学生のときにきっかけがあった」というお話をされてしまったので、小学生の時に見ることも大事かもしれませんが、中学生のうちに様々な職業体験をしていただくというのは、大きなプロモーションになっていくと思いますし、それは、県立高校守るためにも一つ意味があると思うんです。ちょっとそういう感覚はあります。

<p>教育委員</p>	<p>他に何かこの部分でご発言ありましたらお願いします。</p> <p>中学校での職場体験はすごくいいと思います。その前に小学校でも、地域学習として、自分の住んでいるところ、地域の行事への関わりを考える機会も授業の中であると子どもからも聞いていますが、このことは、子どもたちがいろいろな仕事を見たり、思い描いたりできるきっかけづくりになっていると思いますので、このまま続けていただければと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>今、2人の委員さん言われましたように、小中、そして高へどうつなげるかは課題としても、小中の連携は必須ですので、キャリアを高めていくために、どんなことができるのかということで、今もやっていますが、さらに小学校段階でこういった力を育み、それを中学校につなげるという、そういった系統的な流れをつくり出していくということが大事かなと思います。</p> <p>それから、去年から市長に言われております起業という、仕事を起こすという意味での起業ですが、このコロナ禍ということもあわせて、仕事の仕方、スタイルが随分変わってきたところがあって、志摩市で仕事ができる、昔だったら東京に行かないとできなかった仕事が志摩市でもできるようになってきたという状況を考えたときに、この起業ということを一つのキーワードにして、これまで校長会でも、職場体験学習の一つの観点として入れて欲しいということを伝えていきます。そのためには、起業する人との出会いというのも大事ですので、そういったところで、先ほど委員が言われた人材バンク的なものを整備して、学校が必要とするのならば、志摩市にこんな人がいますよということが紹介できたらいいですし、その人が中学校へ行って話をすることで、刺激を受ける子どもたちが何人かいると思います。先ほど、体験が最大のプロモーションという話がありましたが、合わせて、私はこの出会いこそが最大のキャリアアップだと思いますので、学校へ来ていただいて、その人と出会って、何かしゃべる人のキラキラした目と、聞く人の目がマッチすることもあります。これまでも何人か、市民病院の院長さんの話を聞いて「僕も医者になる」という子がいて、まだなっていないんですが、現在、修行中の子たちもいます。そういった出会いもあるのかなということで、整備できるところはしていきたいなというふうには思います。</p>
<p>教育委員</p>	<p>今、職場体験の大事さをおっしゃられました、やはり発達段階にお</p>

	<p>いて、体験することで、小学校の時の体験、中学校の時の体験というのは、その子自身の自信になったり、また意欲になったりすることがあります。体験学習で学んだことが、進路とか、将来について考えるいい機会になると思います。市長がおっしゃられたように、体験学習をする場ですが、お店屋さんとか事業所さんも増えてきてはいますが、今までの職場体験を見ていると、限られたところになってしまっているようなところがありますので、できましたら、ご助言とかご支援をいただいて、いろんな職種のところでは体験できるような場を作っていただけたらと思います。</p>
教育委員	<p>今、体験と出会いという部分のお話をさせていただきましたので、もう一つ、「夢」の持てるキャリア教育というところを、さらに付け加えていただけるとよいと思います。先ほどの起業のこともそうですけど、実際にこんなふうにはできるんだという具体的な話の中で、私もできるんじゃないかというような、できるだけ夢を持ってもらって将来を切り開いていく、そういうようなキャリア教育になっていったら、さらにいいんじゃないかなと思います。是非ともその辺をよろしくお願いします。私も、それに協力していかないといけないと思っておりますので、よろしくお願いします。</p>
市長	<p>先ほどお話をいただいた部分でいうと、実はこの間、地域医療振興協会という、日本全体で地方の病院をたくさん運営している法人、たくさんお医者さんを抱えていて、すごい数なんですけど、ここの理事長さんに、実はこういうお話をしたんです。なぜこういう話をしたかというのと、一施設を運営している施設長さんが、「我々の人材育成を市はどう考えているんですか」というお話をされたんです。私からは「お言葉を返すようなんですけど、我々は子どもたちに職業体験していただく場を複数回準備して、そういうふうなチャンスを与えることしか我々にはできない。子どもたちにどこでヒットするかっていうのは、我々にはわからないんで、やはりヒットするかもっていう回数を増やしていくっていうのは、可能性を上げていくってことになるんで、こういうことを今後取り組んでいくことが非常に重要であると考えています」というふうにお話をしました。そうしたら、「いくらでも来ていただいたら結構です」ということで、やはり事業者の皆さんも口に出さないだけで、非常に興味があるお話のようです。その話はまた、情報はお伝えさせていただきます。</p> <p>他にも、志摩にある松下幸之助さんが作った国民ソケット。ご存知で</p>

	<p>すか。国民ソケットって、松下幸之助さんが作って大ブレイクした商品ですけど、まだ作っているんです。わずかなんですけど、でも、このソケットを作ってるのは、実は日本で唯一志摩市の工場だけなんです。そういうパナソニックでも大事にされている工場が志摩市にあって、その工場はたくさん志摩市の人を雇用したいって言っているんです。本当にいくらでも雇用したいと。すごい企業レベルも高いんですけど、しかしながら、やっぱ知られていない所もあります。そういった意味では、我々、行政が架け橋になって、職場体験できるようにも、ちょっと頑張っていきたいなと思っています。よろしくお願いします。</p> <p>それでは、4つ目の「今後の県立高校のあり方として、志摩市の歴史や産業構造を軸において、どのようなビジョンを描くとよいか」の部分に関してご発言いただければと思います。</p>
教育委員	<p>市内で就職して、地元でしっかりと働いている若者を見ると、すごくうれしく思います。地元で必要とされている仕事のスキルを学べる学科や高校があって、地元で学べるということは大事だと思います。</p>
教育委員	<p>今日の社会の変化の中で、積み重ねられてきた志摩市の歴史、産業を省みても、水産業と観光業は外せないと思います。探究的な地域学習「志摩学」の実施や、市内の観光施設などで地域の人々との関わりを持ったりすること、また、小中学校の総合学習の地元学などを通して、地元の良さに気づき、地元を誇りに思う気持ちが育まれてきています。</p> <p>志摩市の未来を担うような人材を育成していくためにも、市としてバックアップをお願いしたいと思います。やはり地元を知って、地元の良さを感じて、そういう思いが育まれてきていますので、よろしくご支援ください。</p>
教育委員	<p>またお願いで申しわけありませんが、語学を活かして志摩市に貢献する人材育成というような観点で、現在、オーストラリア研修の支援を実施していただいておりますが、それと同時にパラオとの国際交流の場も、今後も続けていけるような形で、ご支援いただけたら非常にありがたいと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>それと、コロナ禍で中止になっていますが、商工会さんが地元企業の紹介というのを、水産高校、志摩高校でやっていただいております。様子を見に行かせていただきましたが、高校生たちが非常に興味を持って、それぞれの企業のブースに行っていていただいておりますので、さらに充実</p>

<p>市長</p>	<p>していけるような形でのご協力をお願いします。同時に企業訪問への協力というような部分のところも、商工会等と協力していただけるとありがたいと思いますので、よろしくお願いたします。</p> <p>先ほどお話をいただいた部分ですが、実は先日、東海小学校の3年生が、市長室を見たいということで、20人に3回に分けて来ていただきました。引き出しを開けてもいいけど、触ったら戻してねって伝えたら、本当に私のデスクの引き出しをワーッと開けて、棚も開けて見ました。やっぱり、どんなところで仕事をしているんだろうということ、子どもたちに見ていただきたくて、非常にいいチャンスをいただきました。そんな中で、子どもたちの中から「僕は政治家を目指す」という子が出てきてもいいと思っていて、だからこそ、見ていただいたんです。中には「どんな仕事をしているんですか」とって聞くお子さんも見えるんです。「何しているんですか」と。私は、「おじさんは、皆さんがよそに行っても、誰にでも自慢できるまちを頑張るって作ろうと思っていて、そんなこと考えながら仕事しているんです」ということを言ったんです。小学3年生の子どもたちなので、「へえー」とって感じでしたけど、でも、そうやって交流できたことは、非常にありがたかったです。これは、今までそういうことはしてなかったと思うんです。本当に、子どもたちに感じてほしくて、やらせていただいたんですが、まさに今、市内の企業さんも含めて、どんなお仕事をしているのかってわからない企業が多いと思うんです。子どもたちに知っていただく機会ってというのは大変重要であるかなと思っていますので、しっかりと取り組んでいきます。</p> <p>その中でも、水産業、観光業という部分は、この地域からは外せないもので、観光においても、2016年の伊勢志摩サミットからたくさんの投資が入って、世界の方々からも選ばれる施設もできましたし、一方で、グランピングという新しい観光のあり方も生まれてきましたし、そういった部分も見つかる機会を設けられれば、非常にありがたいかなと思います。水産業においても、今は磯焼けで、非常に厳しい状況ではあるんですけど、片や、取れる魚が変わって、非常にいい魚種もありますし、エリアによって非常に豊かな地域も出てきています。その違いを見て、課題解決をしたいって思っただけのような人材も、実際に見ないと作れないと思うので、そういった部分にはしっかりと取組をさせていただきます。</p> <p>あともう1点、パラオの件なんですけれど、パラオとの交流は今年もちよっと厳しい状況の中なんですけど、やはりその中学生の子たちに対</p>
-----------	--

教育長	<p>しては、クニオ・ナカムラ元大統領がこの伊勢志摩のご出身で、水産高校にカヌーを送られて、それを今、復活させたりとか、いろいろパラオに関しては歴史的背景があるということも学んでいただきたいという部分もあります。あと、パラオの大使も先日、志摩市にお越しいただいて、いろいろお話をさせていただいたのですが、新しく大使になられたんで、しっかりとつなぎも取っていききたいなと思っています。やっぱり島しょ国という一つの枠組みの中で、歴史的背景はそれぞれの国で違いますけれども、この地域の自然とか、置かれている立場というか、置かれている部分というのは非常に似ているところありますんで、気候とか自然という部分を切り口に学びを深められるきっかけにもなると思います。語学の部分でもそうかもしれませんが、海外の方と接するというアレルギーが無くなるので、そのあたりのイノベーションに、ちょっと期待したいなとは思っています。これも引き続き、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。あとオーストラリアの件も、志摩高校にやっていただけるのであれば、支援していこうと思っていますので。</p> <p>この観点では、地元人材の育成ということに繋がってくると思うんですけども、そのためには、やっぱり地元にも就職先がきちんとあって、そこで生活ができていくというビジョンがないと、なかなか絵にかいた餅になってしまうというところで、その整備も必要かなというなことは思います。</p> <p>いろんな人材を育成していく中で、成人式の子どもたちのことを思い出しますが、どこへ行っても、その地域を大事にする人材を育成するということで、もっと広く考えれば、理想ですけども、志摩高校が生き残る一つの手段として、志摩高に来ると、地域の人たちと積極的に関わって、地域で働いていくためにはどんな力をつけたらいいかを学ぶことができ、ある者は志摩市に残るし、ある者はどこか遠く離れたまちへ行くのでもよいし。そこで、志摩高で学んだ手法を使いながら、地域の人材として活躍するようなことができれば、一つの生き残る道があるのかなと思います。非常に理想的な話ではありますが、それが成人式の子どもたちが言っていた「関係人口」ということになってくると思います。地元に残るだけが生き方ではないというのは当然認めないといけないと思いますので、何人かは地元に残り、他の者は日本のいろんなところで活躍している、そんな姿が描けたらいいのになという、ちょっと理想論です。</p>
-----	---

<p>市長</p>	<p>それでは、最後に「さらに、地域として、どのようなアクションが必要か」という部分についてです。私としては、今後、県に対してどういうふうに意見を述べていくかという部分も必要になってくると思いますので、そのあたりも何かあれば教えていただければと思いますので、よろしくお願いします。それではこの部分に関して、ご発言あります方はお願いします。</p>
<p>教育委員</p>	<p>水産高校、志摩高校というのは、志摩市内の子どもたちにとって、なくてはならない存在だと思います。存続を強く要望していますが、存続のためには、地域としての連携、それから協力も必要と考えます。</p> <p>その一つとして、これまでも市内の2校とは、事業や行事で連携し、高校生が活躍できる場面がありました。今後、地域の高校として、様々な面で様々な団体と連携して活動ができるように、市としても、各部署を通して支援をお願いしたいと思います。</p> <p>それから二つ目としては、特に水産高校への働きかけであります。今後、入学生を確保するためには、市内だけでなく、市外や県外からも、船舶関係、あるいは機械関係の資格を取ろうといったような、そういう目的を持った、優秀な生徒を確保することが必要になってきます。現在も市外からの入学生があり、他の生徒も一生懸命に勉強をするというように、そういう効果が現れているというように聞きます。そういう生徒を確保するためには、今度は下宿の確保とか、市外からの入学生に対する財政的な支援を、市のアクションの一つとして考えます。財政的支援の具体的なものとしては、バス代の補助とか、いわゆる下宿代の補助とかといったことで、可能かどうかということが考えられます。財政的な支援があれば、市外からの入学もしやすくなり、入学生の確保にも繋がると思います。これはできる範囲でいいと思いますが、そういったようなことをお願いすると、高校は地域と連携し、特色化、魅力化を推進していくことに尽力し、地域や行政は、そのための環境整備を支援することが、存続に向けて必要なアクションだと思います。財源の必要なことですが、検討のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>最後に、市内2つの高校の頑張りは、市の広報のコラムでも紹介されています。また、ケーブルテレビ、行政チャンネルとか、いろんな面でも紹介もされております。そのように、多くの市民に伝わるように、市長をはじめとする市職員の皆さんから、志摩高校や水産高校の頑張っている様子や、その必要性と存続を機会あるごとに市民にお話していただけるとありがたいと思います。私たちも自分たちの周りに、この話題を</p>

<p>市長</p>	<p>広げていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。</p> <p>水産高校に関して、下宿不足というのは数年前から聞かせていただいております。令和6年に新しい「しろちどり」もできますので、今年入った1年生だったと思うんですけど、専攻科への志願者数は定員オーバーで、やっぱり新しい船ができて、そこで三級海技免状を取りたいってことです。三級海技免状があれば、大きな船の船長をできるってということで、就職先としたら、もう引く手あまたらしくて、この専攻科というのは定員オーバーしていくでしょうというお話もありました。特に三級海技免状がとれる学校というのは、日本国内でも限られておりますので。先ほどおっしゃられた、市外、県外のお子さんをどういうふうに、こちらに誘致をしていくかという部分は、寮が無くなりましたので、下宿等々の整備というのは、今後重要になってくるのかなと思っております。その辺りはまた、水産高校の先生方とも協議をさせていただきながら、和具地区においても何かいい案があれば取り組めたらいいなと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>あと、PRの部分に関しても、しっかりと志摩高校、水産高校のPRをさせていただいて、市内のPRもそうなんですけど、市外へのPRも大事かなと思いますので、しっかり取り組みます。</p> <p>そんな中で、市内のPRをする時に、今まで持っている固定概念を払拭できるような、「変わったよね」という、そういう意識の変化が起こるような発信の仕方っていうのも大事だと思います。変化を感じられるような情報発信をして、それが子どもたちの心にヒットするような、親御さんの心にヒットするような、そういった取り組み方も大事になるかなと思いますので、これも取り組んでいければと思います。</p> <p>要は両校と連携して、表舞台に出せるような、そんな場も本当に大事なのかなと思っています。冒頭にお話した志摩高校の美術部さんの取組以外にも、この間も浜島町のビン玉ロードのメインモニュメントを志摩高校美術部に制作していただいたりしています。あれは、年明けすぐだったと思うんですけど、新聞にも載りました。志摩高校の美術部の皆さんは、おとなしい方たちなんですけど、絵を書くと割と派手な表現をされる方が多くて、すごく面白いなと思うんです。しっかりとやっただいていて、親御さんのサポートもすごいんです。当日はたくさんの親御さんが現地までお送りいただいて、様子も見られてました。そういった場づくりというのも、できる限り、我々もつなげながらやれたらいいなと思っていますので、よろしくお願いします。</p>
-----------	---

最後に、この地域としてのアクションという部分ですけれど、繰り返しになるかもしれませんが、市長部局の目線で言うと、小学生、中学生のお子さん、また保護者さんが、地域の高校を選んでいただくというのは非常に大事で、選んでいただくための素地というのは、じゃあ何なのかっていうのは、皆さんに今ご議論いただいた部分になってくると思うんです。水産業、観光業もそうなんですけど、やはり志摩の歴史、あと産業構造を見た上で、魅力ある職場はこの地域にもありますよっていう部分も知っていただかなきゃ駄目だし、普通科という一つの受け皿を残しながらなんですけど、その後、高校の1年生、2年生、3年生のときでも、それぞれ、水産高校のようにちょっと変化をしていくような、普通科で入ったけどその中で分かれていくとか、普通科っていう一つのバックグラウンドをしっかりと持った上で、求められている業界に行けるとか、そんな県立高校の目線を作れば、非常にいいかなと思っております。それはやはり我々が県に現場の声を届ける、地域の声を届けるということが非常に大事だと思っていますので、具体的な部分まで届けられるかどうかわかりませんが、やはりしっかりとお話できるところまでは、県に出かけて行って、高校を守っていくってところへ着地していきたいなと思っております。ひいては、我々とすれば、子どもたちがこの地域に戻ってきていただきたい。この地域で働いていただきたい。また、それが叶わないのであれば、教育長が言われた関係人口として、関係を持ったままでいていただきたいという、そういう形に持っていきたいと思っています。

皆さんに今日いただいたご意見に関しては、可能な限り、取り組みたいと思いますので、引き続き、よろしくをお願いします。

教育長

一点よろしいですか。今後のアクションの話ですが、私は高校の活性化協議会に出させてもらっておりまして、月1回ぐらいのペースで会議をしているんですけども、なんとか抵抗勢力でありたいと思いながら、数字に押されるんです。「子どもはこれだけ減ってきますよ。学級数はこれだけ減りますよ。ですから、こうやって整理をしていかないといけない」という論議に、どうすれば対抗できるかなというところで、一つは、学びたいけど地域に学ぶところがないというのはやはりおかしいでしょうということ。普通科ということをとらえても、伊勢まで行かないと普通科には行けないという状況になって果たしてよいのか。鳥羽、志摩、南伊勢あたりの学校が、今後非常に厳しい状況であることは十分わかるんですけども、鳥羽は総合学科ですが普通科の流れとして考えたとき

	<p>に、学びたいけども地元で普通科がないという状況でいいのかどうかという意見を言わせてもらっています。今少なくとも、志摩高校であれば毎年 40 人ちょっと希望者がいる。鳥羽高にもいますので、その学校がなくなっていくことによって、果たしてその子供たちはどうなっていくんだろうという心配があります。経済的なハンデとか、そういったものがある子どもたちから、学びが取られるというふうなことはないのか、といったことを考えてほしいと話させてもらっています。しかし、この数の減り方については、非常に厳しいところもありますが、地元の高校がやはり必要ですということは、繰り返し言っていけないといけないと思います。きっと多くの方が、無くなってからその大事さがわかると思います。</p>
<p>市長</p>	<p>学校の話から少し離れるんですけど、実は志摩市は非常にハンデが大きくて、今、学校においても、こういった議論の土台に乗ってしまっているという部分があるんですが、県の関係でいうと、8つの派出所、交番を減らそうという話があります。志摩市が一番多いんです。今、鳥羽とか南伊勢の学校のお話も同じようなテーブルに乗っております。志摩市は、県の所管でいうと、別の部分においても非常にハンデが大きいです。そんなことを考えると、学校は、ある意味、残しやすい素地はあるはずなんですよ。産業もそうですし、人口規模でもそうですし、様々な切り口においても、地の利においてもそうだと思うんです。そのあたりは、教育長おっしゃられたように、私ももちろん、抵抗していきんですけど、徹底的にあがいていけないといけないと正直思っています。</p> <p>私は、今、高校生の子どもが1人いますけど、周りの子供たちに聞くと、地元で学んでいることとか、すごくいいと言っています。これはなぜかという、地域の人たちにもかわいがってもらえるし、地域の人により近い場所でいろんな学びがあるということを言っています。志摩高校も志摩学をやっていただいていますし、水産高校は船のことやっていただいている、本当に地域の人たちとの関わりという部分の中で、志摩市が一番知っていただくのはやっぱり両校だと思います。伊勢の高校に行けば、それだけご縁は薄くなりますので。我々も、そのあたりはしっかりと取組をしていきますので、引き続き、よろしくお願ひします。</p> <p>そのほかに何かご発言ありますでしょうか。よろしいですか。事務局何かありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>特にありません。</p>

市長	<p>皆さん、ありがとうございました。非常に貴重なご意見いただきましたので、これしっかりまとめて、今後のアクションのあり方の参考にさせていただきますと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>以上をもちまして閉会といたします。ありがとうございました。</p>
----	--